

健康問いかけ K Y T 役割演技シナリオ

(シナリオ役割演技訓練)

○役割分担

監督者⇒E, 部下⇒A, B, C, D, F

(F が不在のときはBが代行)

○進め方のポイント

円陣を組む。名前でよびかける。具体的に問いかける。

監督者	部 下	
E	全 員	「整列。点呼とります。番号」 「1、2、3、4、5」
E	全 員	「お早うございます。」 「お早うございます。」
E	B	「 <u>B 君 体操がきちなかったけど。あ、目も赤いな。 どうした</u> 」 「テレビの見すぎで12時過ぎに寝たので、若干、寝不足 気味です。体操の時、靴の中に石が入ってしまって…」
E	B	「作業はしっかりやれますか？」 「差し支えありません。」
E	C	「 <u>C 君 朝食は十分食べましたか？</u> 」 「今朝はいつものとおり、野菜も十分取りました。」
E		「C 君はいつも顔色がいきいきとしていいですね。」

E		<u>「D 君 このところ便秘ぎみだと聞いているけど、今朝はどうだった？」</u>
	D	「最近便秘ぎみで、今朝もありませんでした。しかし作業に差し支えはありません。」
E		「野菜を十分食べるとよいそうですね。一度医者にご相談してみたら……」
	D	「はい分かりました。」
E		<u>「A 君 ゆうべ同期の送別会があったそうですが…」</u>
	A	「すこし飲み過ぎで、今朝はちょっと頭痛がします」
E		「それはいかな。高所作業はやめて、下で片付け作業をしながら様子をみよう。もし調子が悪くなれば早めに連絡して下さい。」
	A	「はいわかりました」
E		<u>「A 君 血圧の具合はどうですか？」</u>
	A	「130 と 70 の正常です」
E		「日頃の減塩食と運動の成果が出ているようですね。今後続けて下さい。」
E		<u>「F(B)君 昨日、帰りぎわに寒気がすると言ってたけど、今朝はどうですか？」</u>
	F(B)	「今朝はちょっと頭痛がしますが大丈夫です」
E		「もし調子が悪ければ遠慮なく早めに連絡して下さい。」
	F(B)	「はいわかりました。」
E		「それでは、今日の作業は……（省略）」
E		<u>「タッチ アンド コールで作業にとりかかろう。B 君 唱和のリードをして下さい。」</u>
	B	「一人ひとりカケガエノナイ人 ヨシ！」
全	員	「一人ひとりカケガエノナイ人 ヨシ！」

1 Rの“危険要因”と“現象”の表現の仕方

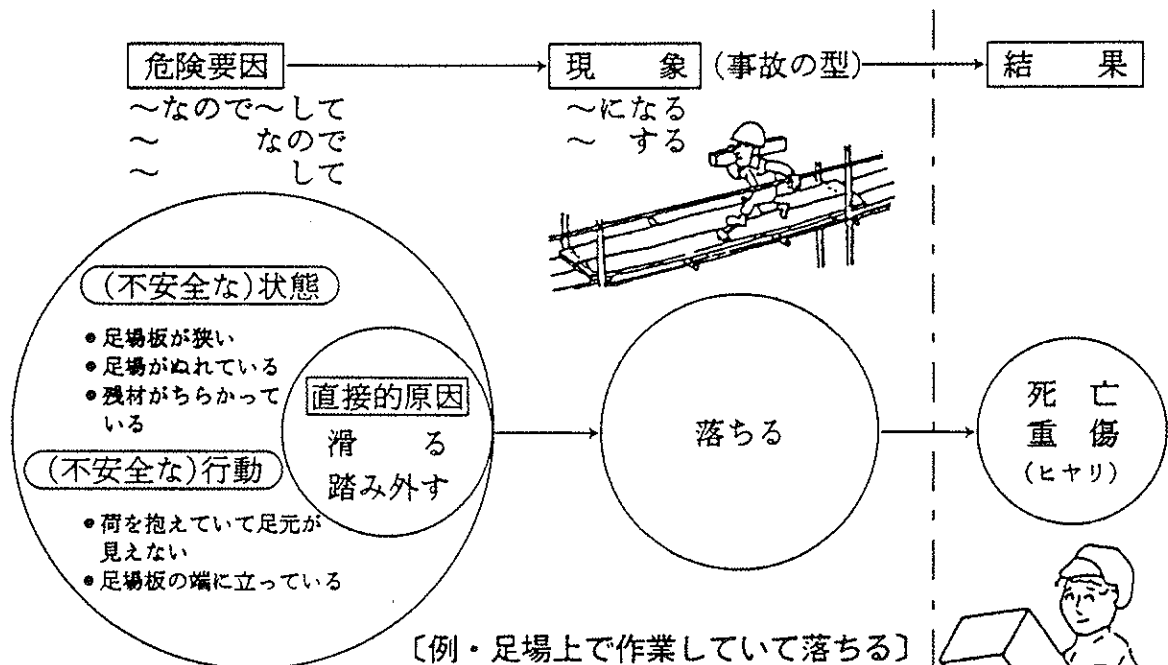
1. イラストの中の作業者になりきろう

1 Rの現状把握では、シート中の作業者の身になりきって、自分が作業しているつもりでシートを見つめる。

2. “危険要因”と“現象”の組合せで表現しよう

「～なので～して」
 「～になる」
 「危険要因」 「～ ～なので」 + 「現象」 「～する」
 「～ ～して」

- 「～かも知れない」「～の危険性がある」「～の恐れがある」などはいらない。
- 事故の結果〔ケガ（ねんざ・骨折）、死亡〕については発言する必要はない。



3. “危険要因”を掘り下げよう

〔例〕 状況：荷を持って、階段を下りようとしている。

(例えば)

「踏み外して転げ落ちる」という危険が思い浮ぶ。

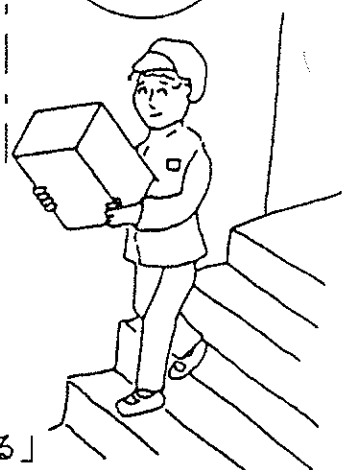
○なぜ“踏み外す”のか？

例えば、「足元が見えないので、階段を踏み外して落ちる」

○なぜ“足元が見えないのか？”

例えば、「両手で大きな荷を抱えていて、足元が見えないので、階段を踏み外して落ちる」

このアンダーラインの部分、KYTで求められる“危険要因”である。



4. “危険要因”を具体的に表現しよう

- ・具体的にするのは、お互いに分かり合い、気付き合うため。

〔例〕

〔ムリな姿勢なので～ 不安定なので～ ～が悪いので～〕	】	という抽象的な表現だけでは、

“何”が“どのように”「ムリ、不安定、悪い」のかがお互い分かり合えない。
そこで、

例えば

〔中腰で持っているので ～ つま先で立っているので ～〕	】	など具体的に表現しよう。

5. 「～していないので」という表現は避ける。(前向きに、肯定的に表現)

安全帯を <u>していないので</u>	┌	危険の要因として、保護具、防護施設を <u>して</u> <u>いないので</u> という発言があるが、危険の要因 をこのようにとらえると、3Rの対策では、
保護メガネを //		
手袋を //		
足場を固定 //		

↓

安全帯をつける	┌	だけの発想に留まり、根本的な危険要因を除 去するための広く多角的な発想が出にくくな る。
保護メガネをする		
手袋をする		
足場を固定する		

したがって、1Rでは作業の状況を素直に見て、

皮手袋をしていないので→鉄板を素手で…しているので…

足場を固定していないので→足場がずれて動くので……等

のように、背後の直接的な危険要因をとらえるようにしよう。

6. 現象(～になる)は事故の型で表現する。

ケガをするというような抽象的な表現はやめる。

事故の型の例

- | | |
|------------------|---------------|
| (1) ～から落ちる(墜落する) | (7) ～にはさまれる |
| (2) ～してころぶ | (8) ～に巻き込まれる |
| (3) ～にぶつかる | (9) ～して手を切る |
| (4) ～が足の上に落ちる | (10) ～して手をこする |
| (5) ～が頭にあたる | (11) ～でやけどする |
| (6) ～がくずれ下じきになる | (12) ～で感電する |

KYT 基礎 4 ラウンド法の手順と要項

導入	KYT を始める 前に	全員起立 1. リーダーは全員を整列させ 2. 番号を掛け、唱えさせて気持を引きしめ 3. 続いてひと言“挨拶”を言ってから 4. 健康確認（訓練ではメンバーの1人をとらえて固有名詞で具体的に問いかけて、その健康状態を確認）を行う。
第1 ラウンド (1R) 現 状 把 握	ど ん な 危 険 が ひ そ ん で い る か	みんなの話し合いで、イラストシートの状況の中にひそむ“危険要因”とその要因が引き起こす“現象（事故の型）”を想定する。 1. リーダーはイラストシートをメンバーに見せ「状況」を読み上げる。 2. リーダーはこの状況の中に「どんな危険がひそんでいるか」をメンバーに問いかける。 3. メンバーはイラストの状況の中に我が身を置いて、その中にひそむ危険を発見してドンドン発言する。 4. 危険要因と、それが引き起こす現象を想定して、「～なので～になる」というように具体的に発言する。 5. 書記はメンバーの発言を模造紙に手早く分かりやすく書いていく 6. リーダーは全員（書記 含めて）から発言を引き出す、所定時間内であらかじめ決めた目標項目数（5～7項目）以上に、できるだけ多くの危険を発見するように努力する。 7. リーダーはきりのよいところでメンバーからの発言を打ち切り、各項目を見直し「否定的表現」や「掘り下げ不足」の項目があれば是正してから第1ラウンドの終了を告げる。
第2 ラウンド (2R) 本 質 追 求	こ れ が 危 険 の ポ イ ン ト だ	発見した危険のうちから、質の高い重要だと思われるものをメンバーの合意で危険のポイントとし、指差し唱和する。 1. 第1ラウンドで書いた項目をみんなで眺め、リーダーはこれらの危険のうち問題のある重要な危険は何かと問いかけ内容を確認していく。(No 1から順に読み上げてよい) 2. メンバーは「これは問題だ」「こいつはウッカリできないぞ」と思う項目のNoを発言し、書記は赤で○印をつけていく。 3. リーダーは○印項目のうちから「特にみんなの関心の高いもの」「重大事故になる可能性のあるもの」「くり返し発生しそうなもの」

		をメンバーにはかって決め、書記は赤で◎印にする。 ◎印は2項目（ケースによっては1項目）程度とし「危険のポイントとし、赤でアンダーライン」を引く。 4. ◎印は多数決ではなくチームの合意で「ソウダコレダ」「ヤッパリコレダ」という感じでみんなの納得できるものにする。 5. ◎印項目をリーダーのリードで「危険のポイント～なので～になる ヨシ!」と正しい姿勢で指差し唱和して第2ラウンドをしめくくる。
第3ラウンド (3R)	あなたならどうする	危険のポイントに対してそれを解決するにはどうしたらよいかを考え、話し合いで具体的な対策を出し合う。 1. リーダーは、危険のポイントについて、それを予防するのに「あなたならどうする」とメンバーに問かける。 2. メンバーは「この状況ではこうしよう」「こうすることが必要だ」という具体的で即実行可能な対策(自分出来る・すぐできる対策)をドンドン出していく。所定時間内で各3項目程度出す。 3. 「～しない」という否定的禁止的対策でなく、チームとして「～しよう」という実践的な前向きな行動内容の対策を考える。 4. リーダーは、きりのよいところで第3ラウンドの終了をメンバーに告げ次のラウンドに入る。
第4ラウンド (4R)	私達はどうする	対策の内から質の高い項目をしぼり込んで「重点実施項目」とし、それを実践するための「チーム行動目標」を設定し、指差し唱和する。 1. 対策の中で、チームとして「自分達は必ずすぐにこれをやろう」ということを重点実施項目として決め赤で※印をつける。 ※印は1～2項目程度とし、赤でアンダーラインを引く。 2. ※印項目をズバリとらえた具体的な「チーム行動目標」を設定する。 「～しないようにしよう」というような否定的禁止的表現でなく「～を～して～しよう」というような前向きの具体的な行動内容とする。字数は15文字以上とする。 3. チーム行動目標は、その状況の危険を解決するのに必要な当面の行動内容で「アリアリと目に浮かぶもの」であることが望ましい。 4. リーダーのリードで「チーム行動目標～を～して～しよう ヨシ!」

		と、姿勢を正して指差し唱和し、第4ラウンドをしめくくる。
確認	KYTをしめくくる	指差し呼称項目（1項目）を設定し、演練を行い、タッチ・アンド・コールでしめくくる。
		1. 重点実施項目に関連して、現場で実際に指差し呼称確認すべきポイントを1つとらえ、例えば「1段積み ヨシ!」「センター ヨシ!」などのような、具体的な指差し呼称項目を1項目決める。 2. 指差し呼称項目は、現場で作業中に呼称確認すべきことを鋭く切り込む言葉で設定する 3. リーダーのリードで大声で3回「〇〇ヨシ!」と繰り返して演練し確認する。 4. タッチ・アンド・コール「ゼロ災でいこう ヨシ!」を言って、KYTをしめくくる。
発表 コメント	他チームに学ぶ	サブチーム同士で相互発表・コメントを行う
		1. 発表者は1Rから4R、確認まで、自分の意見・感想を加えず、模造紙に書いてあることをそのまま読み上げる。 2. コメント係は相手チームの発表についてのコメント（約60秒）を行う。まず長所を見つけてほめること、問題点があれば「強いて欲をいえば」と前置きして、アドバイスしよう。

◎役割分担

リーダー：討議の司会・進行・時間管理。全員の発言をうながす。

書記：メンバーの発言を模造紙に記入。要約する必要なし。

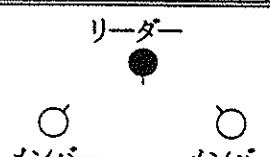
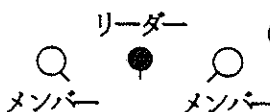
発表者：討議終了後、サブチーム同志で発表する。

コメント係：相手サブチームの発表に対してコメントする。

KYT 基礎 4 ラウンド法の進め方(手法まとめ)

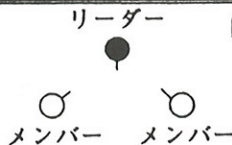
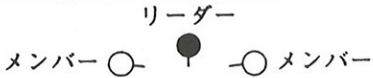
準 備	1 チーム 5 ～ 6 人	役割分担(リーダー、書記、レポート係、発表者、コメント係) 模造紙・レポート用紙配布
導 入	〔全員起立〕リーダー＝整列・番号、挨拶、健康確認	
1 R	現 状 把 握 <u>ど ん な 危 険 が</u> <u>ひそんでいるか</u>	リーダー＝状況読み上げ “危険要因”と引き起こされる“現象(事故の型)” 「～なので～になる」「～して～になる」 「～なので～して～になる」 7項目以上
2 R	本 質 追 究 <u>こ れ が 危 険 の</u> <u>ポ イ ン ト だ</u>	(1) 問題と思われる項目→○印 (2) ○印項目→しぼり込み 2項目程度 →◎印・アンダーライン＝危険のポイント (3) 危険のポイント→指差し唱和 リーダー「危険のポイント～なので～になる ヨシ！」 →全 員「～なので～になる ヨシ！」
3 R	対 策 樹 立 <u>あ な た な ら ど う す る</u>	危険のポイントに対する具体的で実行可能な対策 → 各3項目程度 (全体で5～7項目)
4 R	目 標 設 定 <u>私 達 は こ う す る</u>	(1) しぼり込み 1～2項目程度 →※印・アンダーライン＝重点実施項目 (2) 重点実施項目→チーム行動目標設定 (3) チーム行動目標→指差し唱和 リーダー「チーム行動目標～を～して～しよう ヨシ！」 →全 員「～を～して～しよう ヨシ！」
確 認	(1) 指差し呼称項目設定 1項目 →演練 リーダー「指差し呼称 ○○ ヨシ！」→全員「○○ ヨシ！」 (3回) (2) タッチ・アンド・コール リーダー「ゼロ災でいこう ヨシ！」→全員「ゼロ災でいこう ヨシ！」	
発 表 コメント	サブチーム同士で、 相互発表・コメント	発表者→1R～4R流して読む コメント係→相手チームの発表についてコメント

ワンポイントKYTの進め方（手法まとめ）

準 備	1 チーム 5～6 人	役割分担（リーダー・メンバー／コメント係）
導 入	 リーダー メンバー メンバー	〔全員起立〕 リーダー＝整列・番号，挨拶，健康確認
1 R	現状把握 どんな危険が ひそんでいるか	 リーダー (イラストはリーダーのみ持つ。) メンバー (メンバーは何も持たない。) リーダー＝状況読み上げ “危険要因”と引き起こされる“現象（事故の型）” 「～なので～になる」，「～して～になる」 「～なので～して～になる」 3～5項目
2 R	本質追究 これが危険の ポイントだ	(1) しぼり込み＝危険のポイント 1項目 (2) 危険のポイント→指差し唱和 リーダー「危険のポイント～なので～になる ヨシ！」 →全 員「～なので～になる ヨシ！」
3 R	対策樹立 あなたならどうする	危険のポイントに対する具体的で実行可能な対策 → 2～3項目
4 R	目標設定 私達はこうする	(1) しぼり込み＝重点実施項目 1項目 (2) 重点実施項目→チーム行動目標設定 (3) チーム行動目標→指差し唱和 リーダー「チーム行動目標～を～して～しよう ヨシ！」 →全 員「～を～して～しよう ヨシ！」
確 認	(1) 指差し呼称項目設定 1項目 →演練 リーダー「指差し呼称 ○○ ヨシ！」 →全員「○○ ヨシ！」（3回） (2) タッチ・アンド・コール リーダー「ゼロ災でいこう ヨシ！」 →全員「ゼロ災でいこう ヨシ！」（1回）	
観 察 コメント	金 魚 鉢 方 式	観察チームコメント項目分担

（参考所要時間） 実技5分以内・コメント1人1分以内

SKYTの進め方（手法まとめ）

準 備	1 チーム 5～6 人	役割分担（リーダー・メンバー／コメント係）
導 入	 リーダー メンバー メンバー	[全員起立] リーダー＝整列・番号，挨拶，健康確認
1 R	現状把握 どんな危険が ひそんでいるか	 リーダー (イラストはリーダーのみ持つ。) メンバー メンバー (メンバーは何も持たない。) リーダー＝状況読み上げ “危険要因”と引き起こされる“現象（事故の型）” 「～なので～になる」, 「～して～になる」 「～なので～して～になる」 (3～5項目)
2 R	本質追究 これが危険の ポイントだ	(1) しほり込み＝危険のポイント (1項目) (2) 危険のポイント→指差し唱和 リーダー「危険のポイント ～なので～して～してになる ヨシ！」→全 員「～なので～して～になる ヨシ！」
3 R	対策樹立 あなたならどうする	省略
4 R	目標設定 私達はこうする	(1) リーダー＝重点実施項目指示 (2) リーダー＝チーム行動目標 設定・指示 (3) チーム行動目標→指差し唱和 リーダー「チーム行動目標 ～を～して～しよう ヨシ！」 →全 員「～を～して～しよう ヨシ！」
確 認	(1) リーダー指差し呼称項目設定・指示 (1項目) →リーダー「指差し呼称 ○○ ヨシ！」→全員「○○ ヨシ！」(3回唱和) (2) タッチ・アンド・コール リーダー「ゼロ災でいこう ヨシ！」→全員「ゼロ災でいこう ヨシ！」	
観 察 コメント	金魚鉢方式	観察チームコメント項目分担